

図書館だより

目次

学生と図書館	一島崎 恒藏	1
『ケルムスコット・チャーサー』 (ケルムスコット・プレス版 『チャーサー作品集』)について	一川端 康雄	2
日本女子大学図書館友の会第45回・ 平成22年度総会開催される	一芳賀 弥生	4
展示「花の宴 一春を愛でる」	一中澤 恵子	5
展示「人間社会学部設置20周年記念・ 開設の頃を振り返る-その1」	一濱口 都紀	5
「分類研究分科会」の紹介	一鈴木 学	6
「L-ラーニング学習支援システム 研究分科会」に参加して	一田代 陽子	6
図書館ホームページトップが新しくなりました!	一中澤 恵子	7
図書館からのお知らせ		8



八十年館より図書館正面をのぞむ(目白)

学生と図書館

島崎 恒藏

教養特別講義1は日本女子大学独自の授業科目で、本学の教員であれば、何年かに一度は担当する機会がある。私も家政学部の教員であるので、この授業科目をよく担当する。中心となる軽井沢セミナーのテーマは、その都度いろいろ変えるものの、大きなテーマの枠を設けて学生の興味に任せて探させ、さらに自ら調べさせて、セミナー時に発表させることが多い。その時、「調査にあたっては大学の図書館を利用すること」という条件を必ず付けることにしている。これは一年次の段階から、図書館を大学生活の中に組み入れて欲しいとの願いからである。

IT技術の進展を考えれば当然のことではあるが、最近の学生の間ではインターネットの活用が極めて盛んである。大学受験の際などにも高校生にずいぶん活用されているようであり、このため各大学はホームページを充実し、受験生にいろいろと便宜を図っている。このような世代であるから、何か調査をするということになると、条件反射のようにインターネットで検索ということになるのであろう。話を軽井沢セミナーに戻せば、担当者(私)が前述のような条件を付けたにもかかわらず、インターネットの調査で内容を能率的にまとめてきて、発表する学生が少なからずいる。そのような発表を聞いていると、ある共通点をもっているように思う。一口で言えば、内容が安易であったり、どこかもの足りない印象を受けることが多いのである。これはインターネットの検索内容の問題もあるだろうが、それよりも学生の取り組み姿勢が反映されているように思われる。その一方で、図書館を利用し、試行錯誤しながらまとめてきた発表は、どこかに努力の跡が見て取れ、その内容にも厚みを感じられることが多い。このように膨大な知的財産が集積された図書館の利用体験は貴重であり、是非とも学生に身につけて欲しい点である。

本学の図書館では、入学式後のオリエンテーション期間中に館員が詳細な利用ガイダンスを行ない、また利用のための説明会なども随時開催している。しかしそれでもなお、図書館とあまり関わりを持たずに大学生活を送る学生が少なからずいる。私の経験からも、四年次の卒論研究にあたって図書館ウェブによる文献検索などをさせたりすると、それが身につけていない学生によく遭遇する。図書館は学生の自主的な利用が前提となる施設であるだけに、いかに図書館の重要性を学生に認知させ、その利用を活発化させていくかが、現在の図書館に課された一つの大きな課題であると私は考えている。

(図書館長・被服学科教授)

『ケルムスコット・チョーサー』 (ケルムスコット・プレス版『チョーサー作品集』) について

川端 康雄

イギリス19世紀の装飾デザイナーにして詩人、物語作家でもあるウィリアム・モリス (1834-96年) は、民衆文化に基礎をおいた総合芸術としての装飾デザインを実践し、1880年代にアーツ・アンド・クラフツ運動の中心人物となった。自身の会社 (モリス商会) で制作した壁紙や織物などのデザイン作品の一部は、モリス商会そのものが解散して70年たった今日も販売・愛用されている。日本でも明治時代後期から彼の多岐にわたる仕事が紹介されており、とりわけ柳宗悦の民芸運動に多大な影響をおよぼした。

書物印刷はモリス商会がカバーする領域ではなかったが、美しい本づくりも彼の夢の一つであり、青年時代からカリグラフィや彩色手稿本の制作を余暇に手がけていた。また、自著 (彼は生前はむしろ詩人として名高かった) や愛読書を読みやすくかつ美しいブックデザインで制作する可能性も早くから模索していたが、それはさまざまな制約があつてなかなか果たせなかった。それがようやく実現したのは、モリスの晩年のことだった。

1891年1月、モリスはロンドン西郊ハマスミスの自宅近くに印刷所ケルムスコット・プレスを設けた。彼が56歳のときのことである。1891年4月完成の『輝く平原の物語』から1898年の最後の刊本『ケルムスコット・プレス設立趣意書』に至るまで、全部で53点、65巻の美しい書物を印刷した (モリスは1896年10月に没したので、それ以後は秘書のシドニー・コッカレルが引き継いだ)。印刷所の名称は彼の別荘があるコッツウォルド地方の村の名にちなむ。8年の短い期間だったが、「理想の書物」の夢の実現を図った書物群の見事な出来栄は、プライベート・プレス (私家版印刷) 運動の興隆をうながしただけでなく、商業出版における印刷デザインの質的向上に大いに貢献したと評価される。

1896年に書いた「ケルムスコット・プレス設立趣意書」の冒頭でモリスは、「私が本の印刷を始めたのは、美しいといえる資格をはっきりもち、同時に読みやすくて目をくらませることもなく、また風変わりな字形で読者の頭を混乱させたりしないものを作りたいと望んでのことである」と書いている (モリス『理想の書物』川端康雄訳、ちくま学芸文庫、2006年)。

この企図をモリスは「タイポグラフィの冒険」と呼んだ。彼の仕事全般がそうであったのだが、この「冒険」も同時代の産物への批判意識があつてのことだった。1893年発表の「印刷」と題するエッセイのなかで、モリスは、「美しいタイポグラフィ (活字体) の見本として、可動活字で印刷された最古の本である『グーテンベルク本』つまり1455年ころ制作の『42行聖書』をしのぐ本はこれまでひとつも出なかった」と指摘している (『理想の書物』158頁)。活版印刷術が発明された初期がタイポグラフィの点で最も美しかったという評価は、中世主義者モリスならではのものといえるかもしれないが、一般に西洋の印刷本のなかで『インクナブラ (揺籃期本)』の価値がいまなお最も高いのは、単なる希少性の問題ではなく、美的・芸術的な面からの評価が大きいことは言を俟たない。モリスの見取り図では、16世紀、17世紀と時代が下るにつれて、印刷本の量的増加と反比例して、印刷本の活字デザインの質は次第に悪化し、モリス自身の生きた19世紀に至って最低のものに墮した。大学時代の最後に聖職者の道から芸術家へと進路変更を決めたとき、「時代に対する聖なる戦い」を芸術の領域でおこなう決意をしたエピソードはよく知られるが、晩年のケルムスコット・プレスの試みについても、モリスは確かにその初志を貫いたのだといえる。

ブックデザインという語は現在では一般に本の表紙のデザイン (装幀) という狭義の意味で使われている。その意味でのデザインもモリスはおこなっているが、モリスにとってのブックデザインはそうした装幀に限定されるものではなく、印刷ページのデザイン全般に関わるものだった。1860年代後半に彼は自作の物語詩『地上楽園』をバーン＝ジョーンズの木口木版の挿絵を多数附した本として出す計画をたてた。デザインを版木に彫る作業もある程度おこなっている。だが試し刷りを見ると、木口木版の重厚な線と当時の貧弱な線がマッチしないことに気づき、この計画を断念した。1888年に友人のエマリー・ウォーカーの影響で再度印刷本制作に着手する決意をしたとき、モリス

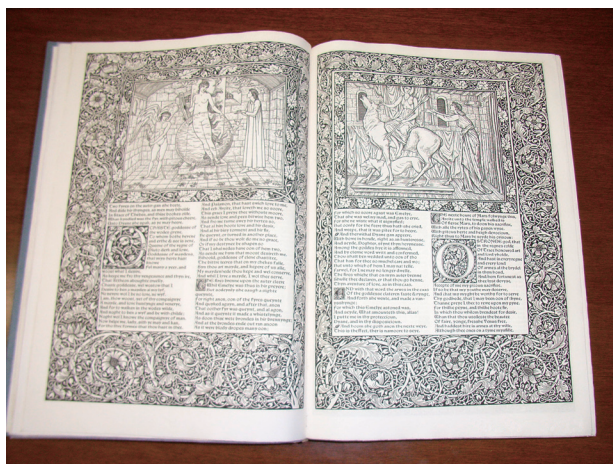
は当然のことのようにまず活字のデザインにとりかかる。最初に制作したのは15世紀ヴェネツィアの印刷者ニコラ・ジャンソンの字体をモデルにしたローマン活字体（ゴールデン・タイプ）であり、次にドイツの初期印刷者たちが用いた字体をモデルにして、ゴシック活字体（トロイ・タイプ）をデザインした。

このたび泉会の2009年度「貴重資料購入援助費」によって購入されたケルムスコット版『チョーサー作品集』は、モリスが愛読した英国14世紀の詩人ジェフリー・チョーサーの1巻本著作集（紙刷本）であり、ケルムスコット刊本のなかで最高傑作とされる逸品である。

当初モリスはこの印刷のためにトロイ・タイプを使う予定だったが、規模の都合でそれをパイカ大に縮小して修正した活字体（チョーサー・タイプ）にした。1893年2月上旬にモリスは最初のページ、すなわちチョーサーの代表作である『カンタベリ物語』総序の「四月がやさしい驟雨で三月の乾きの根元までしみとおりに」で始まる頁のデザインを開始した。葡萄の模様の縁飾り、冒頭のWhanの装飾語、見出し2行のレタリング、挿絵を囲む飾りを描き、これら全部を彫板師のフーパーが版木に彫った。この頁のバーン＝ジョーンズの挿絵（チョーサーの絵）もこの頃出来上がっている。

印刷開始は1894年12月6日。翌年早々、アッパー・マル14番地に加えて21番地に建物（サンダーランド・コテージ）を借り、この両方で印刷作業を継続。バーン＝ジョーンズの挿絵87点は1895年12月にすべて完成した。その下絵はウォーカーの援助によって写真にしたものを木口木版の版木に転写してから彫った。1896年2月末にモリスは木版題扉のデザインを完成させ、3月にフーパーがそれを彫板。最初のシートが刷られてから1年5カ月を経た1896年5月8日、ようやく印刷作業が完了。6月2日に最初の2部がモリスとバーン＝ジョーンズのもとに届けられた。モリスがこの本のためにデザインした装飾は、木版題扉1点、大型縁飾り14点、挿絵を囲む飾り18種、それに大型の冒頭装飾語26点などである。縁飾りは、アカンサスやブドウなど、モリスが得意とする植物のモチーフをふんだんに用いている。サイズは2折判（425×292mm）、本文用紙にはケントの職人に特注した手漉紙が使われている。564頁。チョーサー・タイプ（本文）、トロイ・タイプ（見出し）。二色刷。二欄組。印刷部数は紙刷本425部（販売価格は20ポンド）。ヴェラム刷本13部（120ギニー）。コロフォン日付は1896年5月8日となっている。

泉会の貴重資料購入費は、「真に高い学術的価値を有し、将来にわたって学園全体の宝となしうるような資料を獲得することにより、大学の知的ステイタスを高める」ことを目的として設けられた（「平成22年度日本女子大学泉会事業計画書」より）。「世界の三大美書」と評されるこの貴重書はまさにその目的に適うものと思われる。この書物は今後さまざまなかたちで本学の「知的ステイタスを高める」ために活かされることになるであろう。（英文学教授）



ケルムスコット・プレス版『チョーサー作品集』（1896年）22-23頁「騎士の物語」より
（所蔵：日本女子大学図書館）

日本女子大学図書館友の会第45回・平成22年度総会開催される

2010（平成22）年5月19日（水）、百年館502・503会議室に於いて、図書館友の会第45回平成22年度総会が開催された。石山常子氏の司会で、開会の宣言があり、続いて、図書館友の会会長就任2年目を迎えた蟻川芳子学長の挨拶。蟻川会長は、総合研究所での研究のため調査した、ニューヨークのロックフェラー・アーカイブセンターの、本学の家政学大学院設立のための基金申請の際の資料に「Home economics」とともに「Library」の語があるのを発見し、上代先生が着々といろいろな計画を立てておられたこと、上代先生の思い、情熱を感じた、とのお話をされた。図書館の話題として、泉会（大学在学学生父母の会）よりの貴重資料購入費でケルムスコット版のチャーサー作品集を購入したことを披露された。また、蟻川会長のご紹介を受けた島崎恒藏新館長の挨拶。成瀬先生が将来的には広く門戸を開放していこうというお考えであったこと、最近は図書館に求められる役割が広がっており、例えば、地域社会等に貢献していくという方向性も話された。日頃の活動や指定寄付への謝意と、学生・教職員にとって意義ある資料の購入をしたい、との抱負を述べた。



挨拶をされる蟻川芳子会長

そして議事。議長には斎藤令子氏が選出された。

平成21年度事業報告（阪田香公子氏）、上代タノ平和文庫報告（松本晴子氏）、卒業生著作報告（藤岡恵實子氏）、決算報告（中山蓉子氏）、監査報告（石山常子氏）が行われ、承認された。続いて、平成22年度事業計画案説明、予算案説明（飯塚美子氏）がなされ、承認された。

図書館友の会の事業は、Ⅰ 本学図書館援助（1）図書館参考図書購入援助（2）a. 上代タノ平和文庫選書及び購入、b. 上代タノ平和文庫逐次刊行物書籍収集及び整理補助、Ⅱ 本学卒業生の著作調査及び目録作成、Ⅲ 総会・講演会、Ⅳ 講座・読書会、Ⅴ 見学会・研修会、Ⅵ 会報発行、Ⅶ 会員増加のための広報活動、Ⅷ 他団体との連携・協力と多岐にわたる。総会・講演会、講座・読書会、見学会・研修会の内容は興味深いものであり、一定の参加者数がある。



講演をされる新井明氏

次に、田口令子図書館情報受入課長により、図書館報告があった。毎年度の図書館友の会による指定寄付と、上代平和文庫の寄贈への謝意が述べられた。入館者数が伸びていること、昨年11月より利用開始の学習院大学図書館との相互利用協定締結、ロッカー室改修、1階、4階の洗面所改修、平成23年4月の図書館システム更改のため、昨年度6社のデモを行い、1社選定決定を行ったこと、今年度4月より開館時間延長が開始されたことなどが報告された。

休憩後、新井明氏（本学名誉教授・聖学院大学大学院特任教授・図書館友の会副会長）の講演「上代たの、再び」。出淵敬

子副会長による新井氏の紹介の後、講演が始まった。

新井氏は、1981（昭和56）年4月に、本学文学部英文学科に赴任された。1982（昭和57）年4月8日、上代先生逝去。1983（昭和58）年春、当時英文学科教授であった故徳末愛子氏から、上代先生の文章が載っている古雑誌十数冊を託されたことが『上代たの文集』を編集することになるきっかけであった。新井氏の提唱した、1）高等教育関係、2）「婦人と平和」の問題、3）人物論、4）文学論の四本柱で編集された『上代たの文集』誕生秘話を中心に、キリスト教信仰（恩師ミス・フィリップスの導きで受洗した聖公会からクエーカー教徒へ）、リー・ハント研究のことが話された。上代先生の英文学者としての顔、信仰を持つ者としての苦しみが感じられる講演であった。

50余名を数える出席者の中には、上代先生の教えを受けたという旧教職員の姿も多く見られ、質問をする言葉には変わらぬ敬愛の念が込められていた。 （館員・収書係 芳賀弥生）



* 図書館友の会事務室：目白の図書館5階 入会等お問い合わせは電話03-3941-8865（月～金 10～15時）
平成22年度の講座・読書会のご案内は <http://www.lib.jwu.ac.jp/nkd.html> をご覧下さい。

—図書館（目白）玄関ホール展示—

花の宴 —春を愛でる—

春は、満開の桜がとても美しく、その一瞬が永遠であるよう願わずにはいられない。でも、現実の花の命はとても儚く短い。せめて、図書館（目白）玄関ホールの中だけでも、しばし長く花の宴を楽しんでいただきたく、2010年3月25日(木)～5月22日(土)にこの展示を開催した。「桜を愛でる心：まずは古よりの桜を愛する気持ちをご堪能ください」では、和歌を中心に、「花の宴：桜を愛しむ気持ちから花見文化が生まれました」で



「桜を愛でる心」遠景



玄関ホール入口より

は、花見文化へと発

展する様を、「花の名残り：花見を楽しむ心が美味しく美しいものを創り出しました」では、その花見文化から生まれた茶会席を楽しみ、散るを惜しむ日本人の心を図書館の資料で楽しくご案内できるように心がけた。

この展示をご覧になった方々より、温かいお言葉、励ましのお言葉をいただき、心より感謝している。

(館員・閲覧係 中澤恵子)



—図書館（西生田）玄関ホール展示—

人間社会学部設置20周年記念・開設の頃を振り返る—その1

人間社会学部はこの春、設置満20周年を迎えた。西生田図書館ではこれを記念して、4月2日(金)から5月31日(月)まで、玄関ホールにて「人間社会学部設置20周年記念・開設の頃を振り返る—その1」と題した展示を行った。

今回は第1回としてまず、学内の出版物を中心に開設の頃を振り返っている。『写真が語る日本女子大学の100年：そして21世紀をひらく』からは校舎の建築風景や設置当初の授業の様子や6月に行われた開学式の写真等を、第一期生の卒業アルバムからは、当時の読売ランド前駅やキャンパスの様子がうかがえる通学風景のスナップを展示した。開学式にあわせて発行された『図書館だより』第78号には、当時の青木生子学長、佐藤進図書館長はじめ、学園を代表する方々の新学部、新図書館に向けた期待や思いがみつづられている。開設2年目に開催された第1回日女祭パンフレット、開設時の図書館の日程表などもあわせて展示した。1990年といえば、今年の新入生にとっては「生まれる前」であり、在学生の大部分にとっても「ものごころつく前」ことになる。開設当時の静かな熱気のようなものが伝わったであろうか。



展示近景



展示遠景

「その1」の展示は既に終了したが、今年度は引き続き様々な側面から、人間社会学部開設の年である1990年がどんな年であったのかを振り返っていく予定である。昼一昼分ほどの小規模な展示ではあるが、楽しみにお待ちしております。

(館員・西生田図書館課長 濱口都紀)

—私立大学図書館協会東地区部会研究部 研究分科会活動—

「分類研究分科会」の紹介

研究分科会の制度が設けられた1955年、最初に誕生した分科会です。以後現在まで継続して活動しています。2年間で研究期間の一区切りとし、定例月例会を開催しながら活動を行い、メンバーは、研究内容に関心を持つ関東の私立大学図書館員が中心です。

「分類」は、生物の分類や各種工業製品の分類など身の回りにあります。その中で図書館における「分類」について研究しています。図書館のさまざまな活動は、図書館情報学という学問領域を支えとしています。その活動の一つである資料の組織化について、理論的な支えとなるものが「分類」の考え方です。分類研究分科会では、図書館の活動には欠かせない分類表をはじめとする各種の主題組織化のツールとその理論的基盤について考察しながら、図書館における「分類」について、その歴史や成り立ち、手法や意義・目的などをとらえ、「分類」の理論的な発展や改良のためには何が必要となるのかを研究しています。

ここ数年取り組んだ具体的な研究課題としては、何種類かの分類法を取り上げてその性能比較の実験を行いました。またある一つの分類法の考え方を掘り下げ、実際の業務への応用を模索しました。これからの課題の一つとして、図書館を取り巻く環境で大きな存在となっているインターネットにおいては、「分類」の考え方が通用するかどうか取り組む必要があります。

主題組織化のツールによって、図書館に集められた資料の内容が何であるかを表すことができるようになります。そして図書館の利用者はそれを参照することで、資料の一つ一つを通覧せずとも内容をだまかに把握できるようになります。さらには、ツールにより体系化された資料は、内容的に似た資料が集まる状態で書架に並べられ、利用者が資料の内容にあわせて直接アプローチできる状況を作り出しています。

(館員・西生田図書館 鈴木学)

「L-ラーニング学習支援システム研究分科会」に参加して

私立大学図書館協会東地区部会研究部の研究分科会の活動は、1期が2年間で、2年目の秋に行われる報告大会で研究報告を行います。私は「L-ラーニング学習支援システム研究分科会」に、2006-2007年度、2008-2009年度の2期にわたり参加しました。“L-ラーニング”は、e-ラーニングを利用したオンライン教育の手法をヒントに考え出した造語で、LはLibrary, Librarian, Literacyをイメージしています。研究テーマは、「大学図書館員の自己点検、自己評価、自己研鑽を目的とする、Webを利用した学習支援システムの構築並びに評価、分析」です。

主な活動内容を紹介します。1期目は、オープンソースで構築されたe-ラーニングシステムである“moodle”を採用して、その前の期よりも体系的な学習システムを作成しました。2期目は、図書館業務のアーカイブ化とリポジトリ登録・運用の体験とリポジトリの可能性とを模索して、まずは大学図書館員のためのリポジトリを“XooNips”というシステムを採用して作成しました。さらに、学習支援システムとしてのリポジトリを目指して、料理レシピのサイトをヒントに、リポジトリのトップページイメージをiGoogleで作成しました。

分科会活動は他の大学図書館員の方々との共同研究のため、メンバーを通じていろいろな考え方を知ったり、日常業務に関する改善案のヒントを得たりすることができました。メンバーが所属する大学の図書館見学のみならず、別の大学図書館見学も活動の一環として行いました。報告大会での発表の経験は、図書館のカウンターや講習会などで利用者の皆様によりわかりやすく伝えることなどに役立たせていきたいです。分科会の成果物や活動記録は、次のURLより参照できます。

<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/lls/> (2010/6/4 現在)

(館員・西生田図書館 田代陽子)

図書館ホームページトップが新しくなりました！

2010年3月17日、図書館ホームページトップ画面を学校法人のVI (Vidual identity) 等に沿ってリニューアルしました。蔵書検索、情報検索関係のカテゴリーは画面の左側に、図書館関係のカテゴリーは右側にまとめて配置してあります。色彩やレイアウト変更が中心のリニューアルですが、新しく追加した項目もありますので、簡単にご紹介しましょう。

①協定校利用案内

2009年11月1日に施行された学習院大学図書館との相互利用協定に基づく利用案内を掲載しました。f-Campus 図書館利用案内についても今後追記する予定です。

②講習会等のお知らせ

図書館では利用者の皆様により効果的に図書館を活用していただけるよう、各種講習会を開催しております。それを一覧にまとめました。新着情報は What's New にも掲載します。

③開館カレンダー

トップ画面のカレンダーにより両館の開閉館がわかります。「目白」「西生田」をクリックすると、各日の開館時間、相互利用便の到着日等が詳細にわかりますので、ぜひご覧ください。

The screenshot shows the library homepage with several callouts highlighting new features:

- 新規追加③**: Points to the 'What's New' section.
- 新規追加 ①②**: Points to the '協定校利用案内' and '講習会等のお知らせ' links in the 'What's New' section.
- 過去のお知らせ**: A link to view past notices.

The 'What's New' section contains the following text:

2010.5.24 西生田図書館正面入口の工事が終了し、通行を再開しました
 「データベース検索講習会」開催のお知らせ(目白)
 2010.5.22 「データベース検索講習会」開催のお知らせ(目白)
 2010.5.18 「資料検索講習会2010(全6コース)」開催のお知らせ(西生田)
 2010.5.14 「資料の探し方講習会(蔵書検索編)」開催のお知らせ(目白)
 2010.4.12 協定利用対象館の追加について(学習院大学図書館)
 2010.4.2 図書館(西生田)玄関ホール展示「人間社会学部開設20周年記念-開館の頃を振り返る-その1」開催中
 2010.4.2 図書館(目白)玄関ホール展示「花の宴-春を愛でる-」開催中
 2010.3.25 図書館(目白)玄関ホール展示「花の宴-春を愛でる-」開催中
 2010.3.17 トップページリニューアル
 2010.3.5 図書館だよりNo.137(2010.03.05発行)配布中
 2009.10.21 学習院大学図書館と相互利用協定を締結

The '開館カレンダー' section shows the current date as 2010年5月26日(水) and provides a calendar for May 2010 with days of the week and dates.

積極的なご利用をお待ちしております！

図書館からのお知らせ

図書館の動きを皆様にご理解いただき、より一層ご利用いただけますよう、2009年4月～2010年5月の主な取り組みを、下記のとおりご紹介します。最新情報は図書館ホームページをご覧ください。

日本女子大学図書館サービス 向上への取り組み (2009年4月～2010年5月)

<2009年度>

- リンクリゾルバ「JWU Link」利用開始 (4月)
- 「現代女性とキャリア連携専攻」推薦図書リストをホームページに新規掲載(4月)
- 共同研究室の名称をグループ研究室に変更 (目白, 4月)
- パソコンからの貸出延長, 予約開始(5月)
- 「学生が読みたい本」第4回実施(5月)
- 試験期の1週間前から通常より30分早く開館 (7月, 1月 2007年度より継続)
- 休暇中の開館時間を延長(目白夏季・冬季, 西生田夏季・冬季・春季)(2008年度より継続)
- 学習院大学図書館との相互利用協定施行(11月)
- 「学生が読みたい本」第5回実施(11月)
- 図書館概要をホームページに新規掲載 (11月)
- 1階4階トイレ改修(目白, 2月～3月)
- ホームページトップ画面を学校法人VI等に沿って変更(3月)

<2010年度>

- 開館時間を延長(4月)
授業・試験期間(通学課程)の場合
【目白】月～金 8:45～21:00(土～18:00)
【西生田】月～金 9:00～20:00(土～18:00)
その他の期間はホームページ参照
- 学習院大学図書館との相互利用協定に
法学部・経済学部図書センターが参加(4月)
- 「教養特別講義1」関係図書リストを
ホームページに新規掲載(4月)

2009年度実施した利用者向け講習会

大学スケジュールとして実施

- ・「新任教員の集い」図書館利用案内 4/1 (20名参加)
- ・1年次オリエンテーション<目白・西生田>
スライド上映:4/3 西生田, 4/4・4/6 目白
図書館案内:4/3 西生田 (自由参加形式224名参加)
- ・大学院通信教育課程オリエンテーション
4/4 7名参加

教員からの依頼により授業時間内に実施

<目白>

- 児童2回95名参加 家政経済2回20名参加
英文22回299名参加 史学1回14名参加
物質生物1回7名参加

<西生田>

- 現代社会3回41名参加 社会福祉3回97名参加
教育7回95名参加 心理3回40名参加
文化1回37名参加 大学院現代社会1回3名参加

図書館主催で実施

<目白>

- ・新大学院生オリエンテーション
4/3 理 1名参加 4/9 家政・人間生活 5名参加
- ・資料の探し方講習会:入門編 9回16名参加
初級編 20回34名参加

- ・ProQuest Central 講習会 4回32名参加
- ・RefWorks 講習会 4回38名参加
- ・文献検索データベースガイダンス 4回29名参加
- ・SciFinder(Academic) 講習会 1回3名参加

<西生田>

- ・資料検索講習会
蔵書検索 4回5名参加
DB日本語 4回4名参加
RefWorks 日本語 3回3名参加



編集後記 泉会定時総会当日の5月15日(土)、ケルムスコット・プレス版『チョーサー作品集』を図書館(目白)玄関ホールにて特別展示した。貴重書として心して保管し、今後ご覧いただける機会を設けていきたい。島崎恒蔵新図書館長による巻頭言が始まった。3月の強風時に幹が折れ心配された紅梅、素心蠟梅(図書館目白玄関脇)、若葉が芽吹き、希望が感じられる6月である。(中曽根)